

⑱日本国特許庁
公開特許公報

⑳特許出願公開
昭54—5041

㉑Int. Cl.²
A 61 L 9/01

識別記号

㉒日本分類
30 F 924

庁内整理番号
7445—4C

㉓公開 昭和54年(1979)1月16日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

㉔悪臭マスキング組成物

㉕特 願 昭52—68864

㉖出 願 昭52(1977)6月13日

㉗発 明 者 山下精一

我孫子市高野山501—78

㉘発 明 者 久山宏

浦和市中尾駒ノ前973

㉙出 願 人 東京有機化学工業株式会社

東京都北区豊島5丁目2番1号

明 細 書

1. 発明の名称

悪臭マスキング組成物

2. 特許請求の範囲

脂肪族の多塩基酸(二塩基酸を含む)若しくはその可溶性塩又は脂肪族の多塩基オキソ酸(二塩基オキソ酸を含む)若しくはその可溶性塩と花香調香料を同時に配合せしめてなる悪臭マスキング組成物。

3. 発明の詳細な説明

本発明は悪臭のマスキングに極めて優れた効果を示すマスキング組成物に係り、更に詳しくは、脂肪族の多塩基酸(二塩基酸を含む)若しくはその可溶性塩又は多塩基オキソ酸(二塩基オキソ酸を含む)若しくはその可溶性塩を花香調香料を同時に配合せしめてなる悪臭マスキング組成物に係るものである。

悪臭をマスキングする方法として、脂肪族の多塩基酸又は多塩基オキソ酸やこれらの可溶性塩等、例えばクエン酸、フマル酸、リンゴ酸や酒石酸等が用いられている。しかしながらこれら単独では充分に悪臭をマスキングすることはできない。更にマスキング作用を改良するために、これらに他の成分を配合した組成物が知られている。例えばこれらにフーゼル油および酢酸を配合したもの(特公昭52—88)やパラベンソキノンやα—ナフトキノンに配合したもの(特公昭51—35974)等がある。

このような場合いずれも悪臭のマスキングは発生するアミンの中和等の如き場合であり、アミン臭以外は悪臭が充分にマスキングできないし、強効性もない。

そこで本発明者等は脂肪族の多塩基酸又は多塩基オキソ酸に花香調香料を配合したところ、他の香料にはみられない悪臭のマスキングが見出され、また強効性も優れていることが判明した。

本発明の脂肪族の多塩基酸(二塩基酸を含む)若

しくはその可溶性塩又は脂肪族の多塩基オキソ酸(二塩基オキソ酸を含む)について説明する。

多塩基酸又は多塩基オキソ酸はマロン酸、シニク酸、コハク酸、マレイン酸、フマル酸、シトラコン酸、メサコン酸、イタコン酸、グルタコン酸、タルトロン酸、リンゴ酸、酒石酸、クエン酸等が挙げられているが、これらのみに限定されるものではない。

可溶性塩としてはこれらの酸のナトリウム塩、カリウム塩、リチウム塩、マグネシウム塩、カルシウム塩、ナトリウム-カリウム塩、アンモニウム塩等や、これらの混合塩が挙げられる。

次に本発明に使用できる芳香剤としては花香調香料であり、これはローズ、ジャスミン、ニユーグ、イリス、リラ、ツペローズ、ヒアシンス等の花香調のものである。

具体的なものとしてはブーケブランク G 7 5 4 2 (Bouquet Blanc)、ローズ G 7 5 4 6 (Rose)、ピンキー G 7 5 4 7 (Pinky)、フィナローゼ (Finarose) (いずれも塩野香料製品)、フェニルエチル

アルコール (ローズ P 量産 料製品)、アメリカンビュータイ (アメリカンホームプロダクツ製品)、フローラルサツシエイ (B. C. ジョンソン製品)、ローズオイル (高砂香料製品)、リラ、ジャスミンおよびツペローズのフローラルブレンドとしてエイプリル・インパルス (コルゲートパーモリーズ製品)、フローラル (レニエジットホームプロダクツ製品) 等が挙げられるが、これらのみに限定されることはなく、上記の如き花香調の香気を有する製品または調合物であれば所望の目的を達しえる。

本発明の実施例に示される如く、しだ (Fougere) 調香料、針葉樹 (Pine) 調香料や果実調香料についても試験を行つたが、花香調香料についてのみマスキング効果を達したものである。

また本発明のマスキング剤に展着剤、乳化剤、安定剤等の如き添加剤を含有せしめることができる。以下に実施例をもつて本発明を説明するが、これらの実施例に示される場合のみに限定されるものではない。

実施例 1

ヒコイワシを細断し、約 100g を 50ml の量付きガラスビンに入れ、密栓放置 (室温) 7 日後に下記の薬剤を 5 エスプレーした。

1. 5% マレイン酸溶液
2. 5% コハク酸溶液
3. 5% クエン酸溶液
4. 花香調香料
(0.6% 含有 商品名ローズ 塩野香料製品)
5. しだ調香料
(0.6% 含有 商品名スプリングブリーズ 塩野香料製品)
6. 5% マレイン酸溶液 + 花香調香料 (0.6% 含有)
(ローズ)
7. 5% コハク酸溶液 +
()
8. 5% クエン酸溶液 +
()
9. しだ調香料 (0.6% 含有)
(スプリングブリーズ)

10. 5% コハク酸溶液 + しだ調香料 (0.6% 含有)

(スプリングブリーズ)

11. 市販品

薬剤	臭度	散布後	2日後	7日後
1	—	1	0	0
	+	4	2	1
	++	4	5	5
	+++	1	5	4
2	—	2	1	0
	+	6	5	2
	++	2	4	4
	+++	0	0	4
3	—	7	0	0
	+	2	4	2
	++	1	5	5
	+++	0	1	5
4	—	0	0	0
	+	5	4	0
	++	5	5	5
	+++	0	1	5
5	—	0	0	0
	+	4	0	0
	++	6	5	5
	+++	0	7	7
6	—	7	9	9
	+	5	1	1
	++	0	0	0
	+++	0	0	0
7	—	7	9	8
	+	2	1	2
	++	1	0	0
	+++	0	0	0
8	—	9	9	8
	+	1	1	2
	++	0	0	0
	+++	0	0	0

特開昭54-5041(3)

9	一 十 十 十	0 5 5 0	0 5 6 1	0 0 9 1
10	一 十 十 十	0 6 4 0	0 2 7 1	0 1 7 2
市販品	一 十 十 十	2 6 2 0	1 7 2 0	0 5 7 0
無処理	一 十 十 十	0 0 0 10	0 0 0 10	0 0 0 10

判定方法はパネリスト10名とし、十；き
つゝ悪臭、十；悪臭、十；わずかな臭、
一；悪臭なしと4段階で行つた。

実施例2

0.1多トリメチルアミン溶液を50ccずつ100
ccのビーカーに入れる。これに下記の薬剤を5
ccふりかける。

- 1 10多クエン酸溶液
- 2 10多クエン酸ナトリウム溶液
- 3 花香調香料
(0.6多含有 商品名ブークブランク 塩野香料製)

- 4 花 調香料
(0.6多含有 商品名ピンキー 塩野香料製)
- 5 10多クエン酸溶液+花香調 料(0.6多含有)
(ブークブランク)
- 6 10多クエン酸ナトリウム溶液+花香調香料(0.6多含有)
(ピンキー)
- 7 10多クエン酸溶液+針葉樹調香料^(*)(0.6多含有)
(^(*)商品名エバーグリーン 塩野香料製)

薬剤	臭 度	添加直後	3日後	7日後
1	一 十 十 十	8 2 0 0	1 5 6 0	0 2 6 2
2	一 十 十 十	8 2 0 0	1 2 6 1	0 2 5 5
5	一 十 十 十	0 2 5 5	0 1 3 6	0 0 4 6
4	一 十 十 十	0 2 3 5	0 2 5 5	0 1 4 5
5	一 十 十 十	8 2 0 0	9 1 0 0	9 1 0 0

6	一 十 十 十	9 1 0 0	9 1 0 0	9 1 0 0
7	一 十 十 十	8 2 0 0	0 5 6 1	0 2 6 2
無処理	一 十 十 十	0 0 0 10	0 0 0 10	0 0 0 10

判定方法は実施例1と同一人数で 同様に
4段階で行つた。

特許出願人

東京有機化学工業株式会社